

■コメント

1 新型コロナウイルス感染症

第36週に8,462件の報告がありました。新規感染者数は減少傾向ですが、依然として高い水準です。引き続き、基本的な感染予防対策を徹底することが大切です。

2 梅毒

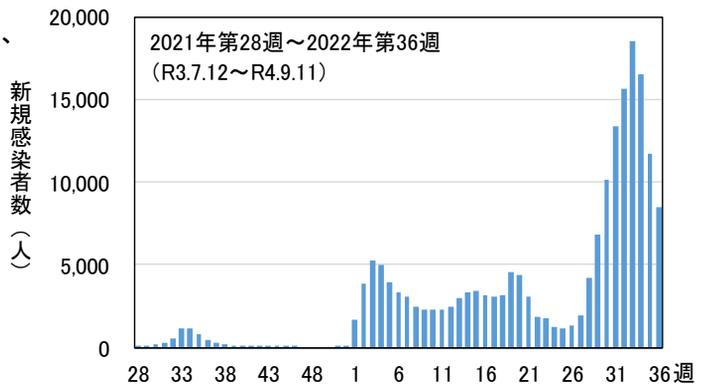
今年の累計は229件となり、過去4年の同時期平均の3.9倍と非常に多い状況です。梅毒は性的な接触により感染し、治療せずに放置すると、脳や心臓などに重大な病変を起こすことがあるため、早期発見・早期治療が大切です。また、妊娠している人が梅毒に感染すると胎児に感染し、流産、死産、先天梅毒を起こすことがあるので注意が必要です。(次ページ参照)

3 後天性免疫不全症候群

1件の報告があり、今年の累計は7件となりました。感染の可能性のある方や不安をお持ちの方は、早期発見・早期治療、パートナーへの感染防止のため、検査を受けましょう。

【参考】HIV/エイズに関する相談と無料・匿名検査(広島市) <https://www.city.hiroshima.lg.jp/soshiki/72/108883.html>

新型コロナウイルス感染症新規感染者数の推移(広島市)



■定点把握感染症報告状況(週報対象)

定点種別	疾患名	報告数	定点当たり	平均過去5年(注年間)	発生記号	定点種別	疾患名	報告数	定点当たり	平均過去5年(注年間)	発生記号
フィリ	インフルエンザ	-	-	0.18		小児科	流行性耳下腺炎	-	-	0.05	
小児科	咽頭結膜熱	-	-	0.34		小児科	RSウイルス感染症	39	1.70	2.09	↘
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	4	0.17	1.20		眼科	急性出血性結膜炎	-	-	-	
	感染性胃腸炎	47	2.04	3.15	⇒	眼科	流行性角結膜炎	3	0.38	0.58	
	水痘	1	0.04	0.20		基幹	細菌性髄膜炎	-	-	-	
	手足口病	15	0.65	1.25	↓		無菌性髄膜炎	-	-	-	
	伝染性紅斑	-	-	0.08			マイコプラズマ肺炎	-	-	-	
	突発性発しん	2	0.09	0.40			クラミジア肺炎(オウム病を除く)	-	-	-	
	ヘルパンギーナ	9	0.39	0.98	↘		感染性胃腸炎(ロタウイルス)	-	-	0.03	

急増減	↑	↓	前週と比較しておおむね1:2以上の増減
増減	↗	↘	前週と比較しておおむね1:1.5~2の増減
微増減	↔	↔	前週と比較しておおむね1:1.1~1.5の増減
横ばい	⇄		ほとんど増減なし

報告数が少数の場合などは、発生記号を記載していません。

インフルエンザ定点数(小児科定点を含む)	36
小児科定点数	23
眼科定点数	8
基幹定点数	7

(注)過去5年間の同時期平均(定点当たり)

■全数把握感染症報告状況(新型コロナウイルス感染症を除く)

類型	疾患名	報告数	累計	備考
2	結核	2	77	30歳代、70歳代
5	後天性免疫不全症候群	1	7	30歳代・感染者
5	梅毒	5	229	20歳代・2人、30歳代・1人、40歳代・2人
5	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	1	13	70歳代

■ 定点把握感染症報告状況(週報対象)の推移

報告数	報告数	インフルエンザ	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	RSウイルス感染症	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎	(ロタウイルス)	感染性胃腸炎	
																					第32週
広島市	第32週	-	4	2	31	-	49	-	9	27	-	65	-	2	-	1	-	-	-	-	-
	第33週	-	-	3	29	2	44	-	4	7	-	65	-	3	-	-	-	-	-	-	-
	第34週	-	-	10	41	1	37	-	1	28	1	44	-	2	-	-	-	-	-	-	-
	第35週	-	5	4	45	1	35	-	6	17	-	43	-	2	-	-	-	-	-	-	-
	第36週	-	-	4	47	1	15	-	2	9	-	39	-	3	-	-	-	-	-	-	-
定点当たり	第32週	-	0.19	0.10	1.48	-	2.33	-	0.43	1.29	-	3.10	-	0.25	-	0.14	-	-	-	-	-
	第33週	-	-	0.13	1.26	0.09	1.91	-	0.17	0.30	-	2.83	-	0.38	-	-	-	-	-	-	-
	第34週	-	-	0.43	1.78	0.04	1.61	-	0.04	1.22	0.04	1.91	-	0.25	-	-	-	-	-	-	-
	第35週	-	0.22	0.17	1.96	0.04	1.52	-	0.26	0.74	-	1.87	-	0.25	-	-	-	-	-	-	-
	第36週	-	-	0.17	2.04	0.04	0.65	-	0.09	0.39	-	1.70	-	0.38	-	-	-	-	-	-	-
全国	第34週	0.03	0.07	0.21	1.92	0.05	3.32	0.01	0.23	0.79	0.03	1.24	-	0.21	0.02	0.02	0.03	-	-	0.01	
	第35週	0.03	0.07	0.28	2.10	0.05	3.74	0.01	0.27	0.89	0.03	1.44	-	0.22	0.02	0.01	0.01	-	-	0.01	

■ 広島市における新型コロナウイルス感染症の発生状況(確定日で集計)

【第36週(9月5日～9月11日)】

10歳未満	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳以上	不明	合計
1,590	1,124	974	1,276	1,329	929	503	380	350	7	8,462

【累計報告数(9月11日)現在】 ※2020年からの累計報告数です。

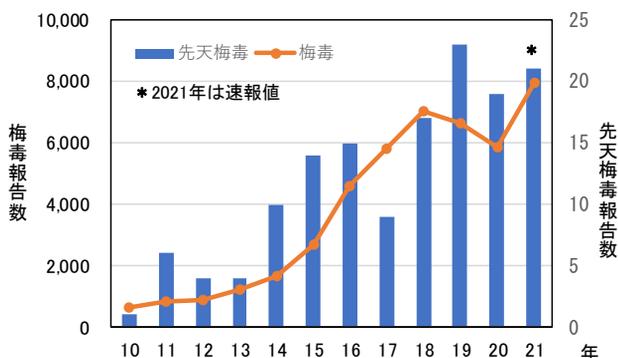
10歳未満	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳以上	不明	合計
27,864	28,296	31,373	31,071	31,051	20,581	11,306	8,339	6,883	312	197,076

新型コロナウイルス感染症の相談窓口
コールセンター(積極ガードダイヤル) TEL:082-241-4566
全日24時間対応

* 新型コロナウイルス感染症に関する最新の発生状況、相談窓口等については、広島市ホームページ「新型コロナウイルス感染症に関する情報(<https://www.city.hiroshima.lg.jp/site/korona/>)」からご確認ください。

【参考】先天梅毒の年間報告数の推移について(全国)

先天梅毒の年間報告数の推移(全国)



妊娠している人が梅毒に感染すると、菌は胎盤をとおりて胎児に感染し、先天梅毒を起こすことがあります。

先天梅毒は、生後まもなく皮膚や骨などに病変を認める早期先天梅毒と、学童期以降に症状を呈する晩期先天梅毒があり、近年の梅毒報告数の増加と並行して、増加傾向を示しています。

先天梅毒を予防するには、梅毒スクリーニング検査を含む妊婦健診を受けることや、妊娠中に少しでも心当たりや疑わしい症状があった場合は積極的に主治医に相談するなど、早期発見・早期治療につなげることが大切です。

【参考】IDWR 2021年第47号<注目すべき感染症>梅毒(国立感染症研究所)

<https://www.niid.go.jp/niid/ja/syphilis-m-3/syphilis-idwrc/10826-idwrc-2147.html>

本週報は、速報性を重視していますので、今後調査などの結果に応じて若干の変更が生じることがあります。なお、感染症情報の詳細についてはホームページをご覧ください。
 URL <https://www.city.hiroshima.lg.jp/site/infectious-disease/>

【問い合わせ先】

広島市感染症情報センター/広島市衛生研究所 〒733-8650 広島市西区商工センター四丁目1番2号
 TEL(082)277-6575 FAX(082)277-5666 E-Mail: lei-seikatsu@city.hiroshima.lg.jp